

現基本構想（10年ビジョン）に基づく取組の進捗状況

（目標2） 暮らしやすく快適で魅力あるまち

杉並区基本構想審議会

目標2

暮らしやすく快適で魅力あるまち

10年後の姿

- ①暮らしの核となる多様な拠点づくりが進んでいる
- ②高齢になっても障害があっても人々がまちに出て交流している
- ③地域の特性を活かした産業・経済活動が活発化している

社会環境の変化等

■平成25年3月	各地で使用されている10種類の交通系ICカードの相互利用が開始
■平成26年12月	まち・ひと・しごと創生法施行
■平成27年2月	空家等対策の推進に関する特別措置法施行
4月	都市農業振興基本法施行
■平成28年12月	無電柱化の推進に関する法律施行
■平成30年4月	働き方改革関連法案成立（平成31年4月以降 関連法が順次施行）
6月	住宅宿泊事業法施行（いわゆる民泊制度の開始）
■平成31年4月	外国人労働者を受け入れる改正出入国管理法成立（平成31年4月施行）
同月	農林水産省・厚生労働省が「農福連携（※1）等推進会議」発足 6月に農福連携等推進ビジョン策定

現基本構想（10年ビジョン）に基づく取組の進捗状況

指標の進捗状況

進捗割合	指標数
すでに達成	4 指標
90%以上	3 指標
80%以上	2 指標
80%未満	2 指標
合計	11 指標

指標名	単位	24年度	27年度	令和元年度 A	目標値 (令和3年度) B	進捗割合 A/B
区内での定住意向	%	84.5	84.9	87.0	90	96.7%
都市計画道路（区道）完成延長	m	6,642	7,022	7,022	8,052	87.2%
住環境に満足する区民の割合	%	90.5	91.0	92.6	95	97.5%
最低居住面積水準未満の住宅に住む世帯の割合	%	21.9 (19年度)	19.5 (25年度)	15.7 (30年度)	5	31.8%
杉並区のまちを美しいと思う人の割合 注1	%	76.7	78.9	78.6	85	92.5%
区内全駅の1日平均乗降人員	人	684,541	724,064	759,900 (30年度)	759,000	100.1%
「すぎなみ学倶楽部」のアクセス数	件	496,397	518,231	767,743	670,000	114.6%
就労支援センターの利用により、就職が決定した人数 注2	人	109	年829	年646	年850以上	76.0%
創業支援による創業者数 注3	件	—	年52	年90	年80	112.5%
商店街への満足度	%	59.1	58.9	66.6	65	102.5%
区内農業産出額	百万円	340 (24年分)	322 (25年分)	315 (29年分)	370 (元年分)	85.1%

【備考】

注1 目標3の指標にも設定

注2 目標数値を「年600人」から「年850人」に修正

注3 目標数値を「年45件」から「年80件」に修正

10年後の姿	①暮らしの核となる多様な拠点づくりが進んでいる
<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅周辺など地域特性に応じたまちづくりが進み、まちのにぎわいと活力が生まれている。 ・ 人々の交流やつながりが深まり、多くの人々が訪れたいような地域の核となる多様な拠点づくりが進んでいる。 	

主な取組

■ 荻窪駅周辺都市再生事業の推進<重点>

区内最大の交通結節点である荻窪駅周辺地区について、南北地域間の分断解消と都市機能の更なる充実を図るため、「荻窪駅周辺まちづくり方針」に基づき、区民・事業者等と協力して都市再生事業の推進に取り組んでいます。また、「荻窪駅周辺まちづくり方針」の具体化を図るため、「荻窪駅周辺都市総合交通戦略」を平成30年度に策定し、取組を推進するとともに、荻窪駅周辺の歴史的・文化的資源を生かした観光まちづくりを進めています。

■ 多心型まちづくりの推進<重点>

交通拠点である駅を中心に、地域の特性を生かした商業の活性化や生活利便性の向上を図り、にぎわいと多彩な魅力のあるまちづくりを進めています。多様な地域資源の活用について検討し、ハード面の取組とソフト面の取組の連携を図りながら、多心型まちづくりを推進しています。

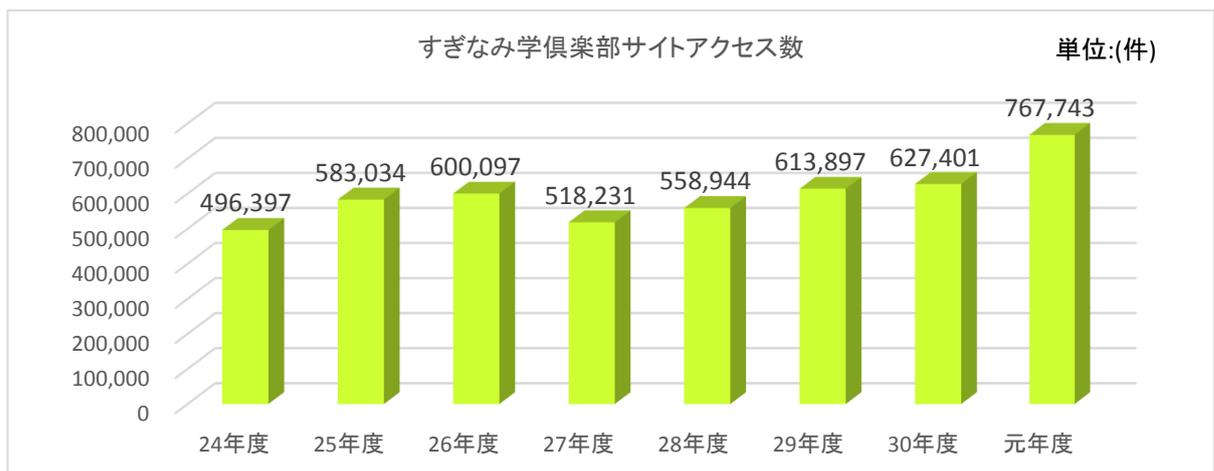
【駅周辺まちづくり方針の策定状況】

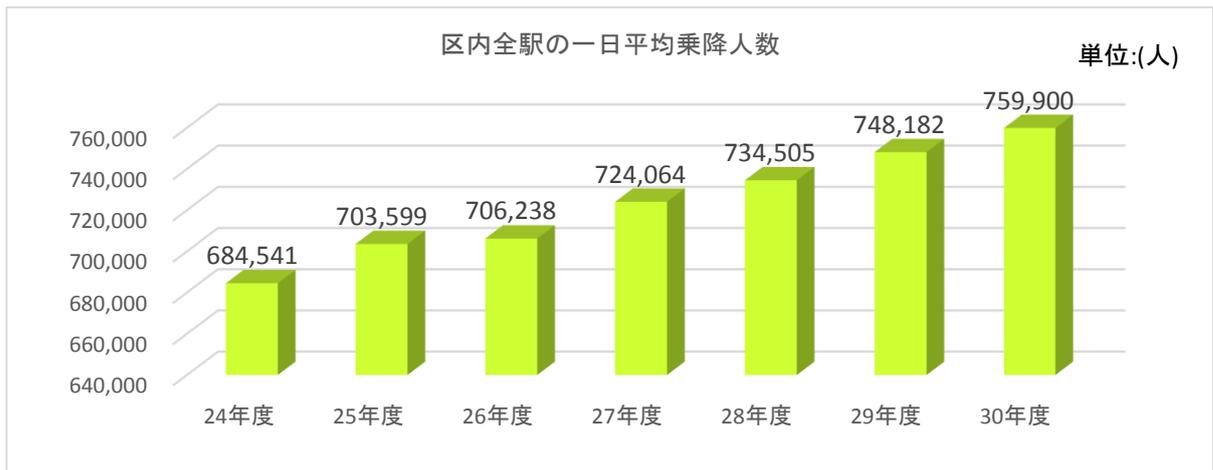
路線	駅名と方針策定期
西武新宿線	下井草駅、井荻駅、上井草駅（平成28年1月西武新宿線沿線各駅周辺まちづくり方針として策定）
JR線	荻窪駅（平成29年4月）、阿佐ヶ谷駅（平成29年7月）、西荻窪駅（検討中）
丸の内線	南阿佐ヶ谷駅（平成29年7月 JR阿佐ヶ谷駅と一体的に策定）
井の頭線	富士見ヶ丘駅（策定中）
京王線	下高井戸駅、桜上水駅、上北沢駅（いずれも平成25年11月）、芦花公園駅（平成28年1月）

■ 杉並らしさを活かした観光事業の推進<重点>

民間事業者が持つノウハウを活用して、中央線4駅周辺の魅力を広く紹介する「中央線あるあるプロジェクト」（※2）を推進するとともに、区民目線で区の魅力を紹介する「すぎなみ学倶楽部」（※3）等により杉並の魅力・情報を発信しています。

また、杉並体験ツアー（※4）を発展させ、複数の観光コンテンツの組み合わせ等により、魅力を高める「杉並魅力創出事業」を実施するほか、「図柄入り杉並ナンバープレート」（※5）の普及・促進などの事業を通じて、訪問意欲を喚起し、リピーターを含めた更なる来街者の誘致を図っています。





■ 空家等対策の推進<重点>

空家等対策協議会の運営により関係機関の連携を図り、専門家による総合相談窓口の開設、空家等利活用モデル事業の実施及び空家の除却助成等、空家等の発生抑制から利活用、除却までの総合的な空家等対策を実施します。

【その他の取組】

- 景観まちづくり（景観計画の運用、景観ニュースの発行など）
- まちづくり活動支援（活動団体等の助成、まちづくりコンサルタントの派遣など）
- 地区計画等によるまちづくり（放射5号線周辺まちづくり、阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりなど）

区の現状認識

- 「荻窪駅周辺まちづくり方針」の具体化を図るための「荻窪駅周辺都市総合交通戦略」の推進に向けて、事業主体と情報の共有化を図りながら、P D C Aサイクルに基づいた、取組の推進管理を進める必要があります。
- 区民ライターが区内の様々な魅力を紹介するWEBサイト「すぎなみ学倶楽部」では、ページビュー数が平成24年度の496,397件から767,743件に増加し、目標値を上回りました。
- 区内に大型の観光資源や宿泊施設が少ない中、地域が育んできた魅力や特性を観光資源として、「中央線あるあるプロジェクト」や「観光情報発信事業」等により、区の魅力を国内外に発信してきましたが、区内浴場組合と連携した銭湯のPRなど、いわゆる観光地とは異なる魅力を発信し、「モノ（消費）からコト（体験）」にシフトする外国人観光客をターゲットにした観光事業の実施が必要です。

10年後の姿	②高齢になっても障害があっても人々がまちに出て交流している
<p>・道路ネットワークの改善や交通アクセスの整備などが進み、高齢になっても障害があっても人々がまちに出て交流している。</p> <p>・施設のバリアフリー化やユニバーサルデザイン（あらかじめ、誰もが利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方）によるまちづくりが進み、人々が快適にまちを楽しんでいる。</p>	

主な取組

■ 鉄道連続立体事業の推進 <重点>

鉄道立体化に伴い円滑な道路ネットワークをつくり、交通渋滞や事故、地域分断の解消を実現するため、鉄道の連続立体交差事業を東京都、関係区市、鉄道事業者と連携・協力して推進するとともに、住民との協働により安全で利便性の高い沿線のまちづくりを進めています。（京王線及び西武新宿線において鉄道連続立体事業を推進していません。）

■ ユニバーサルデザインのまちづくり推進 <重点>

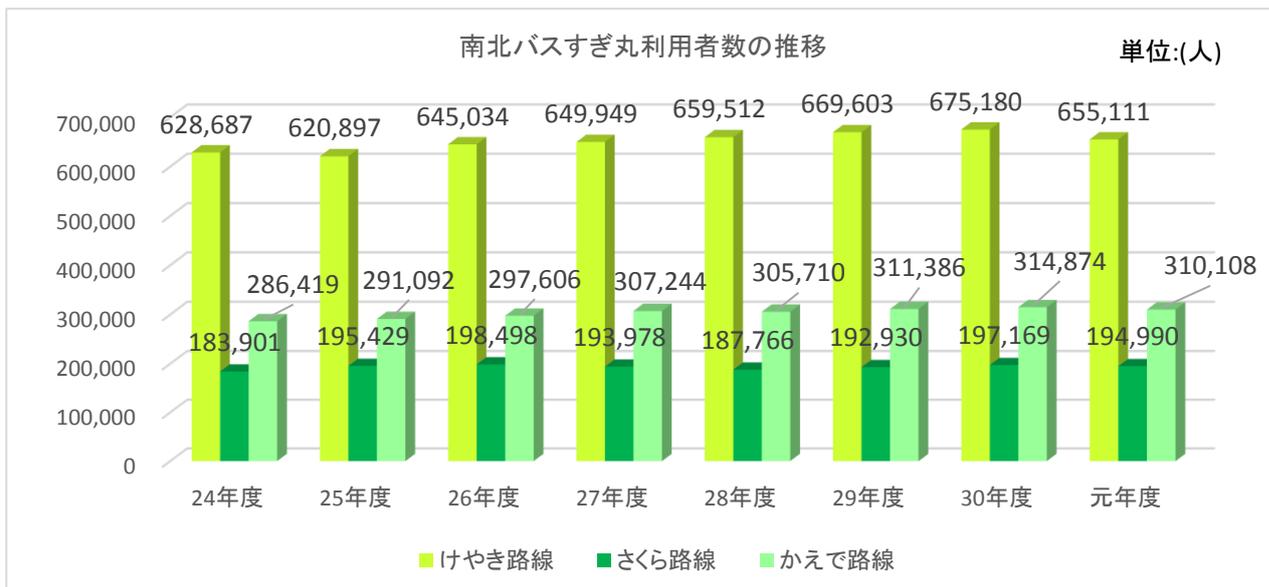
住宅都市杉並にふさわしい誰もがどこでも自由に暮らしやすいまちづくりを実現するため、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、関係機関との連携の下、ユニバーサルデザインの整備を推進するとともに、杉並区バリアフリー基本構想に基づき区全体のバリアフリー化事業を推進しています。

杉並区内の鉄道駅のバリアフリー化		備考
エレベーター設置駅数	18駅	上井草駅はスロープ設置
エスカレーター設置駅数	14駅	上井草駅はスロープ設置、4駅※が未設置
だれでもトイレ設置駅数	19駅	

※東高円寺駅、新高円寺駅、南阿佐ヶ谷駅、浜田山駅

■ 新たな地域交通の整備

今後の少子高齢化の進展など社会環境の変化に応じ、道路等の都市基盤の整備や施設の再編整備に加え、地域交通の利便性向上について調査・研究を進めるとともに、利用者が必要に応じて身近に利用できるシェアサイクルの導入を他区との連携を視野に入れて検討しています。また、関連区と協力して、環状8号線を基本ルートとする区部周辺部環状鉄道（エイトライナー）（※6）の早期実現を目指します。



■都市計画道路の整備

区民生活の防災性・安全性・利便性を向上させるため、東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）に基づき、区が施行する優先整備路線（4路線）の事業化を進めるとともに、都施行の路線については都と連携し整備を進めています。

また、都市計画道路の整備にあわせて電線共同溝の整備を行うとともに、歩道のバリアフリー化を行い、高齢者・障害者等だれにもやさしいみちづくりを進めています。

■生活道路等の整備

防災性や安全性の向上のため整備を行う必要性の高い優先整備路線をはじめとして、区内の生活道路を良好な状態に保つため、計画的に道路拡幅や路面改良工事を行うとともに、公共性のある私道の舗装費用等の助成を行っています。

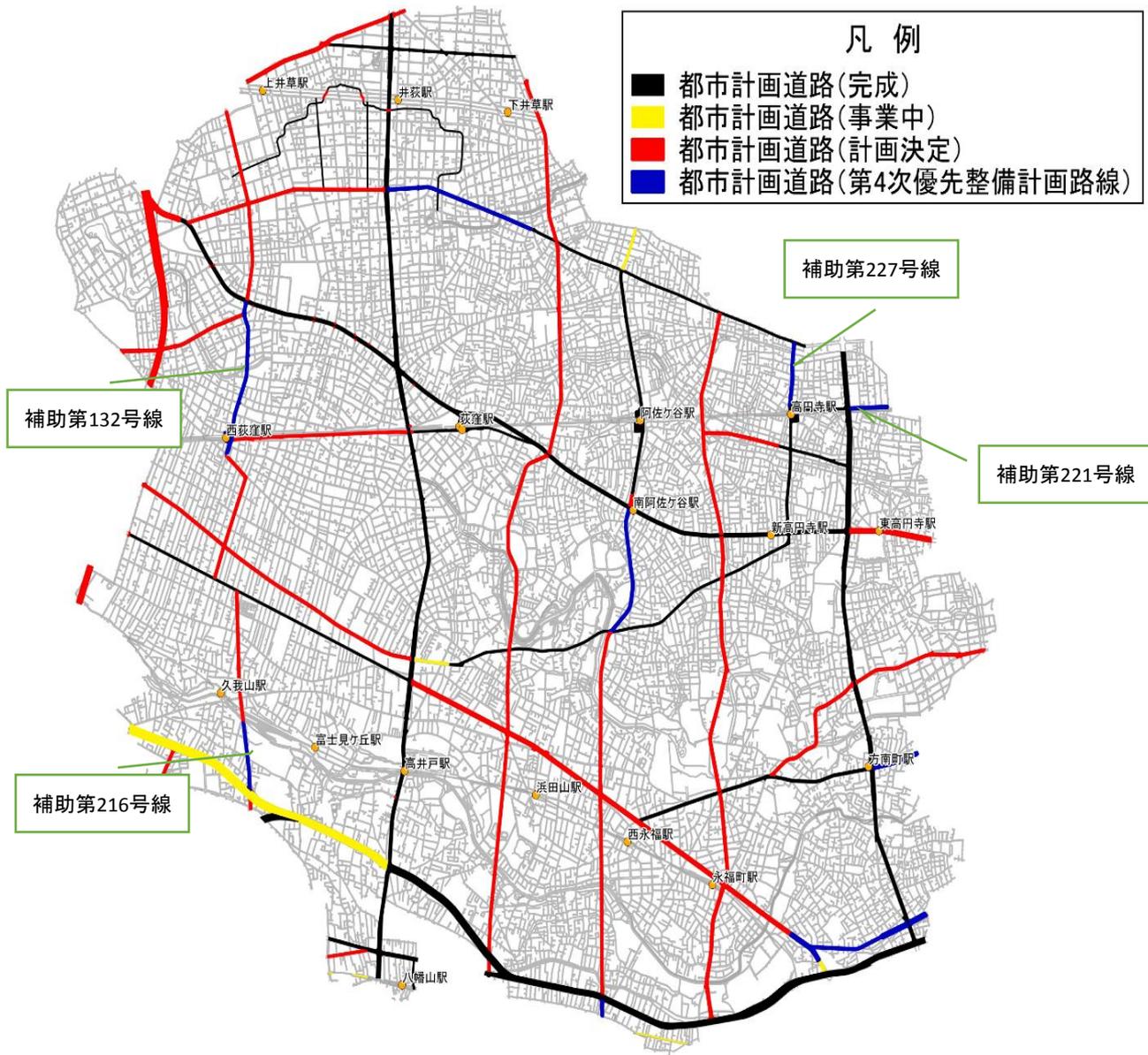
また、平成29年3月に策定した「すぎなみの道づくり（道路整備方針）」に基づき、生活道路への通過交通の進入抑制等や無電柱化に向けた調査・設計等を行うなど、更に安全で快適に歩ける歩行者優先の道づくりを進めています。

「すぎなみの道づくり（道路整備方針）」で定めた主要生活道路の優先整備路線



No	区 間	延 長 (m)
1	青梅街道～中杉通り	1,880
2	中杉通り～都市計画道路補 128 号 (馬橋公園周辺)	710
3	西荻南 2 丁目 29～宮前 3 丁目 31	700
4	人見街道～放射 5 号	880
5	成田東 4 丁目 6～国道 20 号	3,220
計		7,390

杉並区の都市計画道路の状況（「すぎなみの道づくり（道路整備方針）」から）



※記載の4路線が東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）に基づき、区が施行する優先整備路線

- 自転車放置防止対策（放置防止協力員による啓発・指導、自転車駐車場の整備など）
- 都市基盤情報の整備（地籍調査の実施など）
- 公営住宅の運営（長寿命化改修、バリアフリー改修など）

区の現状認識

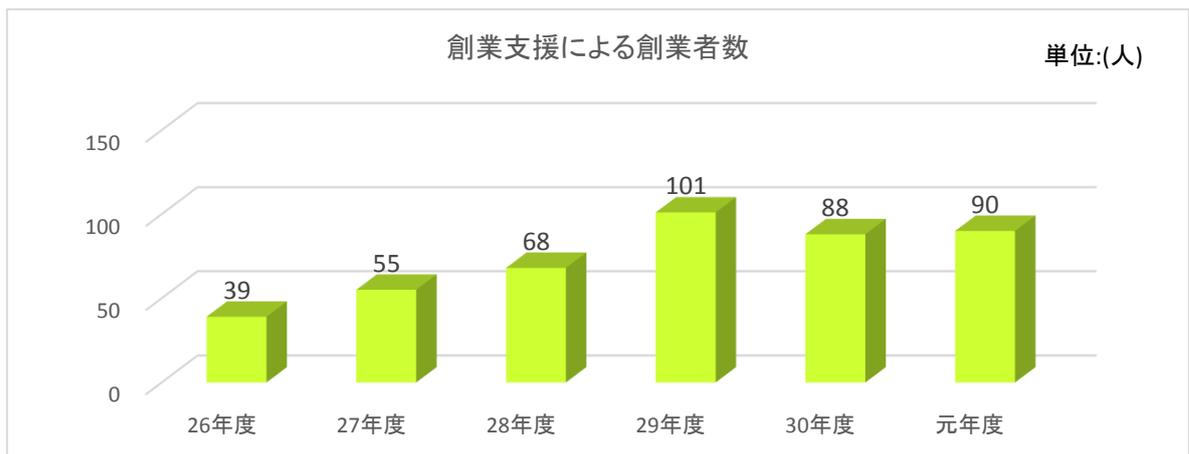
- 鉄道連続立体交差事業は、踏切による交通渋滞や地域分断などの課題が解決できることから、東京都、沿線区市、鉄道事業者や地域等の関係者が連携・協力し、事業の早期実現に向けた取組を進めています。
- 区民の安全・安心を確保し快適な都市基盤を形成するため、「すぎなみの道づくり（道路整備方針）」に基づき、都市計画道路や主要生活道路の優先整備路線の整備を引き続き計画的に進めるとともに、区道の無電柱化について、「杉並区無電柱化推進方針」に基づき、電線管理者等と調整を行いながら進める必要があります。
- 西永福駅周辺において有料制自転車駐車場の整備が完了したことにより、令和元年度をもって登録制自転車置場は区内全域で廃止しました。

10年後の姿	③地域の特性を活かした産業・経済活動が活発化している
<p>・医療・福祉などの生活支援産業やアニメ産業、ICT（情報通信技術）を活用した情報関連産業などが成長している。それらを支える現役世代への就労支援や地域の人材育成の取組みが進んでいる。</p> <p>・文化施設や福祉施設などと連動した商店街の活性化や都市型農業の推進など、地域の特性を活かした経済活動が活発化している。</p>	

主な取組

■ 中小企業の支援

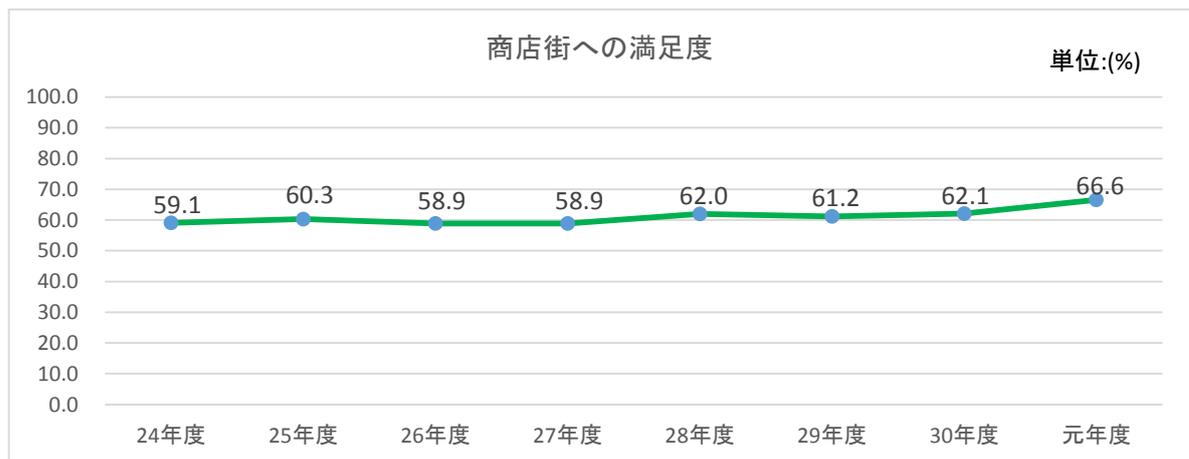
地域経済の状況を見据え、安定的な経営を目指す中小企業者の経営基盤の強化、新たな事業展開や事業の承継など、中小企業が抱える様々な経営課題の解決に向けた企業の取組を支援しています。また、住宅都市と調和したビジネスの創業が活発化し、地域とともに発展していけるよう支援しています。



■ 地域特性を活かした商店街活性化促進<重点>

区内商店街の振興を図り、中小企業の経営の安定と発展及び地域経済の活性化を目的に商店街等が行うイベント事業・活性化事業や、商店街を構成する若手事業者等の団体のほか、商店街会員以外の企業や団体が提案する工夫とアイデアが生かされた事業など、商店街活性化につながる取組を支援しています。

また、装飾灯のLED化や防犯カメラ設置等に助成し、地域住民がより安全・安心に買い物ができる商店街環境の整備を推進しています。

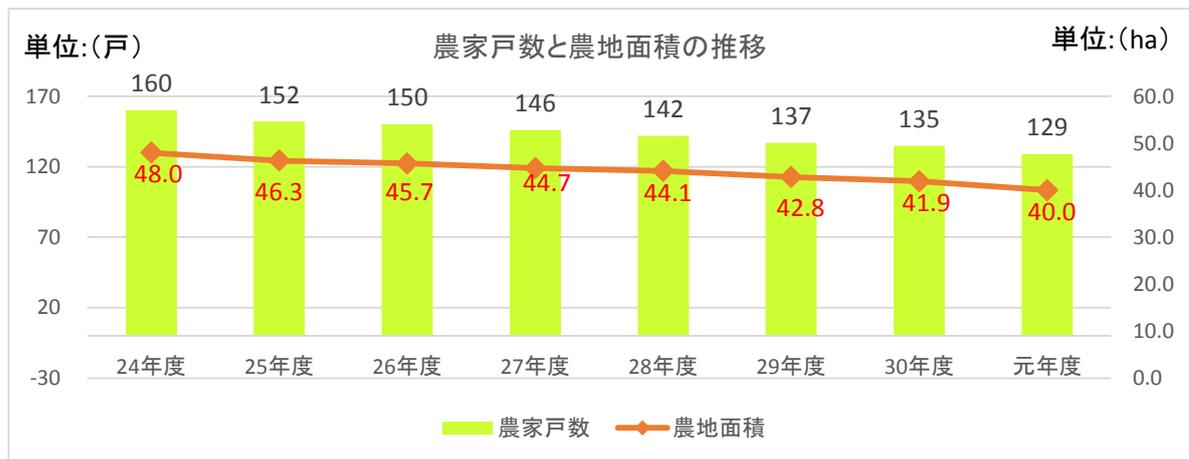


■都市型農業の支援<重点>

杉並産農産物を区内で消費する地産地消の推進や、意欲的に農業経営に取り組む農業者への活動助成、防災兼用農業用井戸の整備助成などとともに、都市農業の持つ魅力と農地保全の取組を広く発信し、都市型農業を支援しています。

また、農業体験農園に関する助成や成田西ふれあい農業公園の運営など農とのふれあいの場を創出することにより、区民にやすらぎを与える都市農地の保全も図っています。

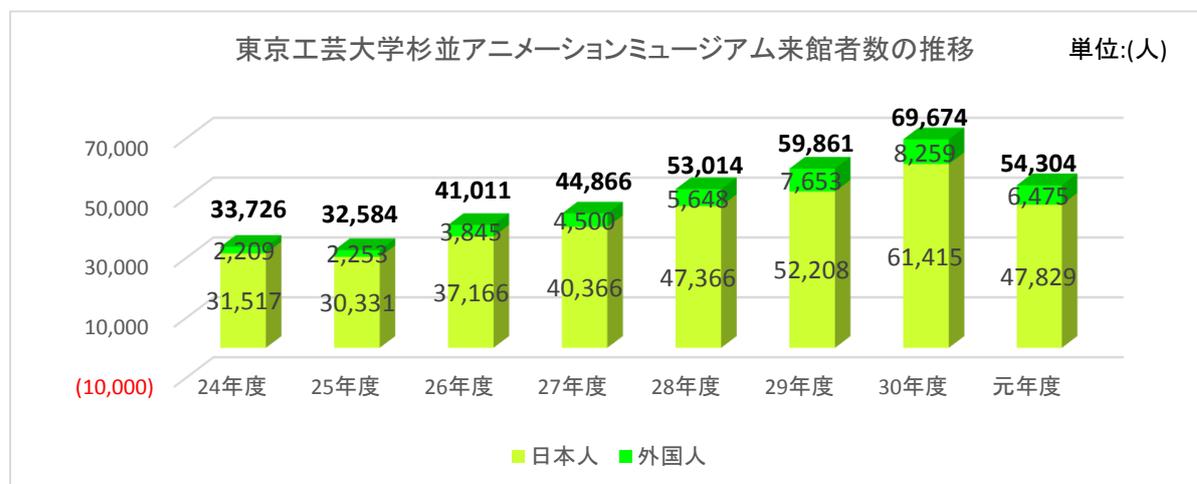
障害者・高齢者等のいきがい創出や健康増進、若者等の就労支援のほか、農産物の福祉施設等への提供等による運営支援や都市農地の保全と都市型農業の推進にも寄与することから、農地を活用した農業と福祉事業との連携農園について、令和3年度の全面開園に向けた取組を進めています。



■アニメの振興とにぎわいの創出

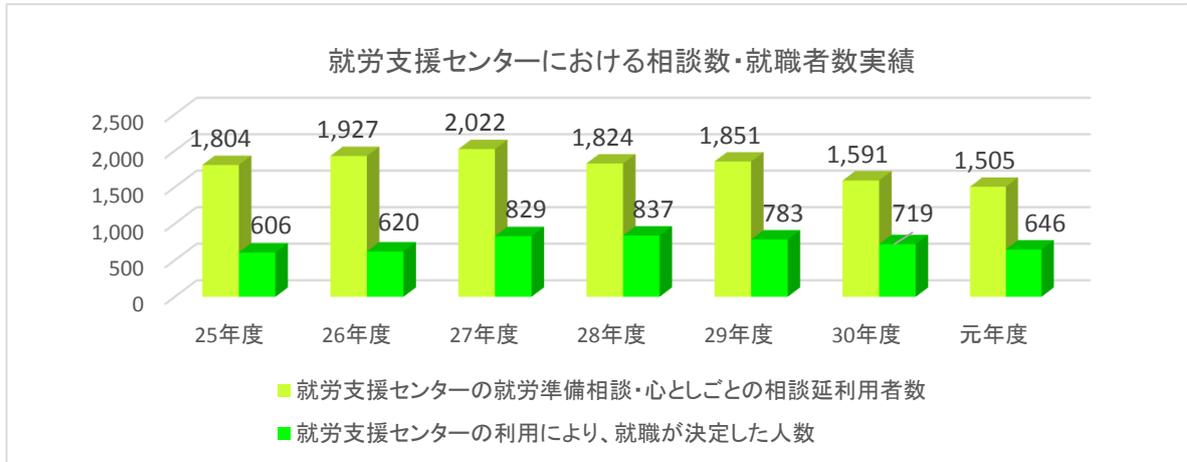
区内に集積するアニメ制作会社等との連携を推進するとともに、アニメーションミュージアムを観光資源として捉え、企画内容の充実や、より広域への情報発信を行うことで、来街者の誘致につなげています。

また、区内アニメ制作会社のコンテンツや区公式アニメキャラクター「なみすけ」の活用を積極的に促進し、商店街をはじめとした地域のにぎわいを創出するとともに、アニメ関連教育機関・企業と連携して、アニメワークショップの充実やアニメ関連教育機関の学生への実習機会を提供するなど協働による相互の事業充実を図っています。



■若者等の就労支援

就労支援センターにおいて、就労準備相談や心としごとの相談、各種就労支援セミナーを実施するとともに、就労準備相談の利用だけでは具体的な就労に至らない若者等に対し、就労準備訓練や社会適応力訓練を実施しています。また、ハローワーク新宿や近隣区、区内事業者と連携し、保育・介護分野の人材不足対策のため、就職面接会等を実施することにより区内での就職に結びつけています。



区の現状認識

○商店街の満足度は、目標を達成していますが、引き続き、地域の特性を生かしたイベント等の取組や環境整備の支援を通じて、商店街の活性化に取り組み、商店街の魅力を高める必要があります。

○農家戸数は年々減少傾向（平成30年度比6戸減）にあり、区内農業産出額は微減（平成30年度比2百万円減）傾向にあります。引き続き、農業者に特定生産緑地制度など農地保全のための新たな制度の周知とともに、区民が気軽に農業に親しめる機会の創出に努め、農業への理解を深めていく必要があります。

○アニメを活かした取組については、他区とのアニメ連携の枠組みを拡大して事業を実施する等により、区への持続的な集客を図りましたが、杉並アニメーションミュージアムの来館者数は、新型コロナウイルス感染症拡大による休館等の影響により減少しました。

【用語解説】

※1	農福連携	障害者等の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取組
※2	中央線あるあるプロジェクト	区のほか、区内産業団体、企業、NPO等で構成される実行委員会により運営される都市観光事業の一つ
※3	杉並体験ツアー	着付け・お茶などの日本文化や東京高円寺阿波おどり等の体験ができる観光ツアー
※4	すぎなみ学倶楽部	主に区民ライターによって取材・執筆が行われている、杉並区の様々な分野の魅力を発信する区公式ウェブサイト
※5	図柄入り杉並ナンバープレート	ラグビーW杯、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の特別仕様ナンバープレートにつづき導入された地方版図柄入りナンバープレートで、図柄が入った杉並ナンバープレートのこと。平成30年10月から交付
※6	エイトライナー	環状八号線を基本的な導入空間として、羽田空港から赤羽線までの44.6kmを結ぶ新しい環状鉄道